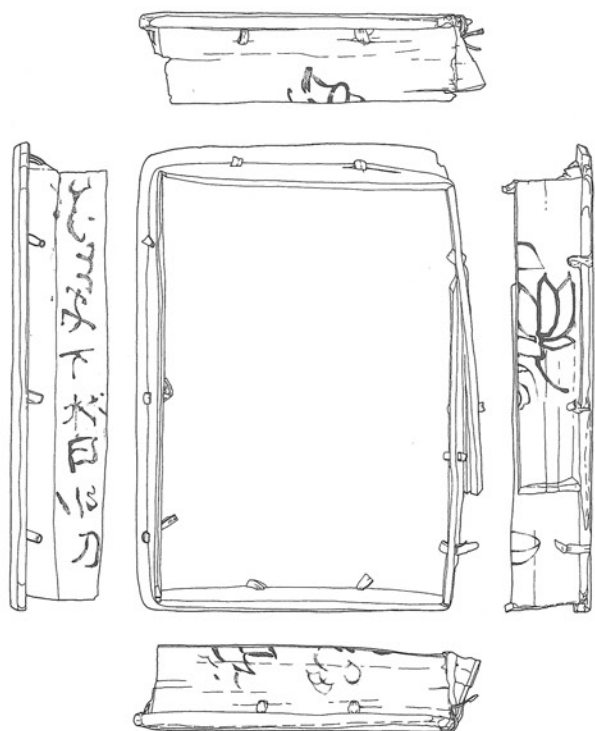




9 関係文献

長浜市教育委員会『八幡東遺跡第三〇次調査報告書』（滋賀県長浜市文化財調査資料八三、二〇〇七年）

（山本孝行）

百年の理由

近年韓国木簡への注目が高まっている。便乗して、一言。韓国南部の城山山城出土木簡は、六世紀前半まで遡るといふ。日本最古の木簡は七世紀半ば。韓国最南端と日本との間の、百年の差は、なぜなのだろうか。

城山山城出土木簡は荷札である。荷札作成の背後には、体系的な徴収システムが必要であろう。新羅ではこうしたシステムが構築されていた事実を示すといえよう。

一方同時期の日本には、まだそうした支配体制が成立していなかったのではないか。だから、単なる付札ならいざ知らず、荷札は導入できなかったのではないか。

荷札が爆発的に増えるのは、七世紀後半。やはり、百済滅亡などの一連の動乱で、日本に渡来した人々が伝えた統治技術とノウハウが、古代日本を近代化した、そういうことなのだろうか。日本古代木簡は百済木簡が導入されたもので、だから新羅木簡と雰囲気が違うのかもしれない。昌原から慶州に向かう車内で、漠然と思った次第である。

（馬場 基）